

アジア北地域会長会年頭メッセージ

—新たに始める「悔い改め」の神聖な賜物—

兄 弟姉妹の皆様、この一年、アジア北地域で皆様とともに奉仕する機会があったことに心から感謝いたします。

毎年、新年を迎える時は、これまでのことを振り返り、これからのことを考える時にすることができます。愛の深い天の御父が与えてくださったすべての祝福をきちんと振り返り、それと同時にこれから頂く祝福と機会を待ち望もうではありませんか。

祝福された2022年

この一年、わたしたちの地域は非常に多くの祝福を受けました。コロナウイルスの不安も和らぎ始めて対面で集まることができるようになったことを喜び、定期的に集まって互いに強め合うことができるのはやはり祝福だということを、体験から再確認しました。モロナイ第6章5-6節でモロナイが次の言葉を述べた訳が、前よりもよく分かるようになりました。「教会員は断食し、祈るため、また人の幸いについて互いに語り合うためにしばしば集まった。」

祝福されて、グアム・ジーゴ神殿が5月に完成し、続いて東京神殿が7月に再奉獻されました。非常に多くの祈りがこたえられて、韓国の釜山に神殿が建つことが10月の総大会で発表され、わたしたちは喜びました。日本沖縄神殿の建築も進んでおり、来年には奉獻できるのではないかと心待ちにしています。

2022年には、fsyの8セッションとYSA



日本東京神殿の前に立つ和田貴志長老(中央)、ジェームズ・P・ラスバンド長老(左)、ジョン・A・マキューン長老(右)

カンファレンス5セッションを開催するという祝福がありました。どのセッションも、喜びに満ちた青少年とヤングアダルトの神聖な集まりになりました。すべての参加者と、このイベントの成功のために多大な努力を払ってくださったすべての方々に深く感謝いたします。

新たな始まり

わたしたちの心は、これから始まる年に向かっていきます。毎年新しい年が始まると、新たに何かを始めることが楽しみになります。

「新たな始まり」は、現世での経験に不可欠な部分です。

新たな始まりという永遠の福音の原則があります。それは、わたしたちが知っている悔い改めという原則です。これは美しく、やりがいがあり、人生を変える過程であり、慈しみと愛にあふれる天の御父

が与えてくださった原則です。イエス・キリストの福音が回復されたおかげで、過ちから学ぶことが計画の中に元々含まれていたことを、わたしたちは知っています。そのため、悔い改めは学ぶプロセスであり、喜びのプロセスとなりました。

主の贈り物 — 「悔い改め」

悔い改めは神聖な賜物です。言い尽くせない祝福を伴う賜物です。想像できないほど輝かしい賜物です。三日坊主で終わってしまいがちなだれかの新年の抱負とは違って、永続する変化です。それは変革の原則であって、わたしたちを生まれるながらの人間から、天の両親のような者に変えてくれます。ギリシャ語で「悔い改め」とは、「心の変化、神と自分と世界に対する新しい見方」を意味します。

キリストの初期の教導の業を調べると、この原則の大切さが分かってきます。マタイ伝にはこうあります。「さて、イエスはヨハネが捕えられたと聞いて、ガリラヤへ退かれた。そしてナザレを去り、……カペナウムに行って住まわれた。この時からイエスは教えを宣べはじめて言われた、『悔い改めよ、天国は近づいた』。』^{※1}このとおり、「悔い改めよ」という言葉は、救い主が公に教えを宣べ伝えられるようになったときに初めて発せられた言葉として記録されています。

悔い改めという賜物の意味を真に理解するならば、「悔い改め」という言葉を聞いたときの気持ちからして、劇的に変わります。ストレスや負の感情から、深い喜び

※1—マタイによる福音書4:12-13, 17

と感謝の気持ちに変わるのです。

ネルソン大管長はこう言っています。

「悔い改めを罰と捉え、非常に深刻な状況でないかぎり避けるべきだと考える人があまりに多すぎます。しかし、この罰せられるという思いは、サタンから来るものです。サタンは、わたしたちがイエス・キリストに頼るのを妨げようとします。しかし主は両腕を広げて立ち、喜んでわたしたちを癒し、赦し、汚れを取り、強め、清め、聖くしたいと望んでおられます。……ですからイエスは皆さんやわたしに『悔い改めよ』とお求めになるとき、思いと知識と霊と、さらに息の仕方までも変えなさいと勧められるのです。愛し方、考え方、奉仕の仕方、時間の過ごし方、妻との接し方、子供の教え方、そして自分の体の管理の仕方さえも変えるように求めておられます。」*2

「息の仕方までも」変えなさいと主が預言者を通して言っておられるのは、興味深いことです。平均的な人は、一日に1万7,000回から3万回呼吸します。こんな偉業を、一生涯の間、毎日、意識すら



せずに行っているのです。これは、人が自然に行っていることの一つです。

日々悔い改めて、弟子としてキリストに従うならば、キリストはわたしたちのまさに本質を変えてくださいます。わたしたちの毎日の時々刻々の過ごし方を、何ら意識的な努力をすることなく変えることがおできになります。救い主にひたすら目を向けるならば、救い主は、わたしたちの問題への対処の仕方や成功する方法までも、別段努力することなく自然に変えられるように助けることがおできになるのです。

イエス・キリストのおかげで

日々悔い改めて、意識的に福音に従う

ならば、わたしたちの生活は、あらゆる面で完璧になるわけではないにしても、ネルソン大管長が約束しているように、あらゆる面で良くなります。悔い改めの原則と「新しい始まり」の原則が確かなものであることを、わたしたちは証します。それが、贖い主であり、生ける神の御子であるイエス・キリストの犠牲のおかげで可能になったことを証します。

イエス・キリストのおかげで、わたしたちには信仰をもって待ち望めることが、こんなにもたくさんあるのです。日々悔い改めてキリストに頼り、あらゆる祝福の源であるキリストを認める者のために用意されている喜びを味わうようにと、すべての皆様をお招きします。

イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。

アジア北地域会長

和田 貴志

ジェームズ・R・ラブバンド

ジョン・A・マキューン

福岡ディストリビューションサービスストアを開設

——福岡神殿にほど近い店舗で、参入者の利便性を向上する——

20 23年1月5日、福岡ディストリビューションサービスストアがオープンした。ディストリビューションサービスストア（以下DSS）とは、神殿衣裳やガーメントなどの衣類と、聖典やテキスト、機関誌など教会発行の書籍を取り扱う店舗で、通常は神殿に併設されている。



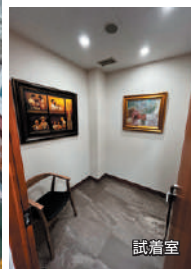
日本福岡神殿は2000年にゴードン・B・ヒンクレイ大管長によって奉献された小規模神殿である。2021年6月、福岡神殿にDSSが設置されていないことが教会本部とアジア北地域の会議の議題に上った。教会本部はすでに、すべての神殿にDSSが併設されるよう方針を変更していた。管理ビショップはその方針を会



福岡DSSの店内



神殿着コーナー



試着室



試着室

議で伝え、福岡神殿地区の会員たちが以前からストア開設を要望していることも踏まえて、他の神殿と同様に福岡DSSの設置が決まった。

サプライチェーンの混乱の中で

2022年4月、アジア北地域エリア配送マネージャーの松永正行兄弟が責任者となり、福岡DSSの開設に向けて動き出した。福岡神殿の敷地内にDSSを設けるのは難しかったので、神殿の近くに場所を探すことから始める。ほどなく、神殿に最寄りの交差点に面した瀟洒なビルの一階に空き店舗が見つかった。店舗内のレイアウトが決まり、6月には管理ビショップリックの承認が下りた。8月末に工事着工、並行して商品の発注を掛ける。店舗内に設置する15個の陳列棚はアメリカで製造され、通常ひと月ほどで納入される。全てが滞りなく進んでおり、松永兄弟は胸をなで下ろした。

ところが、良くない知らせが入る。世界的な木材不足のために棚の製造が遅れるという。加えて、福岡DSSは新設なので商品の数も膨大になり、納品に遅れが出始めた。物流で使用するコンテナも不足し、船便での輸送も円滑には行かない。さらに世界的な半導体不足によりエアコンの納入も遅れる……スケジュール表とにらめっこの日々が続いた。松永兄弟はさすがの思いで折り続ける。「デッドラインより一日でも遅れたら全てがやり直しとなります。祈ることしかできませんでした。教会の業は担当者がきちんと仕事をすれ

ばいいというものではなく、主の力を借りなければできないと再認識しました。」

12月に入り、陳列棚はようやく日本に着いた。しかし、税関でまたもや足止めを食う。松永兄弟は、「このように何度も待たされ、時間がかかるのは、人智では計り知れない主の配慮があるのかもしれない。主のタイミングで物事を進めてくださるように、とにかく最善を尽くそう」との謙遜な思いになったという。

福岡DSSが担うもの

日本のDSSの中では後になったものの、福岡DSSは無事に1月のオープンを迎えた。その特徴について松永兄弟は、「後の者が先になる」(マタイ20:16)の聖句に寄せて嬉しそうに語る。

「福岡DSSは日本のどのDSSよりも広い店舗です。試着室が2つあり、ゆっくりと落ち着いて商品が選べる環境になります。」また、福岡DSSが、神殿参入する福岡神殿地区の会員に仕えられるよう配慮しているという。特に、初めて参入する会員や伝道に出る会員が、体に合った神殿着やガジェットを身につけることによって、神殿の儀式の間、物質的なことに煩わされず、霊的なことに集中できるように願っている、と松永兄弟は言う。

改修のため、2022年8月1日から4か月間にわたって休館していた福岡神殿は12月1日から再開された。福岡DSSが新設されたことは、神殿参入者にとってさらなる祝福となる。

福岡ステーキの甲斐大介会長は「福岡神殿のリニューアル及び、ディストリビューションサービスストアのオープンにととても喜んでいきます」と話し始める。

「『福岡』という漢字はわたしにとって神殿を思い出す言葉です。縦に書くと『岡(丘)』の上に『福』があり、文字通り福岡市内の丘の上にわたしたちの幸『福』の鍵があることを思い起こさせます。神殿参入と、神殿での聖約を守ることを通して、わたしたちはキリストに固く結ばれ、またこの世のあらゆる重荷を下ろすことができます。ネルソン大管長は『神殿にいる時間を増やすと、他の何をするよりも生活が祝福されると約束します』と教えられました。『いつか行こう』、『時間があるときに行こう』ではなく、ぜひ定期的に参入する計画を具体的に立てて、皆さまが神殿を頻繁に活用し、(霊的な)喜びと休息と強さを得られるように願っています。」◆

● 営業時間 ※3

木 17:00 - 19:00

金 11:30 - 13:00 17:00 - 19:00

土・祝 7:30 - 8:45 10:15 - 13:00



※3—2023年1月現在。福岡神殿の儀式スケジュールに応じて変更の可能性があります。最新の情報をウェブサイトでお確かめください。<https://bit.ly/3hZNJ0A>





この時代に生きるえり抜きの若人へ

—地域会長が3つの会場から全国へ、テクノロジーを駆使して語りかける—

20 22年12月4日(日)、アジア北地域会長と姉妹を迎え、全国の青少年および保護者を対象としたデイボーショナルが開催された。地域七十人の伊藤彰記長老が司会を務める中、和田貴志会長と直美姉妹は名古屋東ステーキセンターから、ジェームズ・R・ラズバンド長老とメアリー姉妹は東京神殿別館から、ジョン・A・マキューン長老とデボラ姉妹は京都ステーキセンターから、Zoomを介して集う。そのほか、全国各地のステーキセンターやユニットでも視聴の場が設けられ、大勢の兄弟姉妹がこの特別な時間を共有した。

▶京都ステーキセンター(茨木)から

●デボラ姉妹
イエスのおかげで

クリスマスという特別な時季、わたしたちは御子イエス・キリストの降誕を祝う。回復された福音に、生ける預言者と使徒たち……わたしたち

が受けている祝福を数え上げるデボラ姉妹。中でも聖典は、神の言葉であり、救い主イエス・キリストについて教えてくれるものだ。「主の偉大な使命、主の贖いにより、わたしたちは救いを得ることができます。清められ、癒しを受けることができます。自らの能力を超えて、物事を行うことができるのです。」簡潔ながらも力強い証を青少年に届けた。

●マキューン長老
希望に満ちた未来

「皆さんと過ごせることがとても嬉しいです。」日本での伝道経験があり、日本を「第二の故郷」と呼ぶマキューン長老は、日本語で語り始めた。ここ半年内に3人の使徒と大管長会の一員が日本を訪れたことに触れると、こう断言する。「日本の

る由もなかっただろう。ジョセフが神に祈り求めるところから、世界各地に神殿が建てられるまで、およそ200年にわたる教会の成長を描くビデオが映し出され、ジョセフの言葉で締めくくられた。「神の真理は大胆かつ気高く、悠然と進み行き、あらゆる大陸を貫き、あらゆる地方に至り、あらゆる国に広まり、あらゆる者の耳に達して、神の目的は成し遂げられるでしょう。こうして、大いなるエホバは、業は成ったと告げられることでしょう。」

「ジョセフ・スミスの言葉が真実であると証します。教会は、救い主がまた来られるまで成長し続けます。」マキューン長老は、成長の指標として神殿の数を挙げる。長老が生まれた1963年、世界で稼働していたのは12の神殿であった。17年後の1980年には日本東京神殿が、アジア初、18番目の神殿として奉獻された。現在は稼働中の神殿が175、建設中の神殿が54、発表された神殿が71あり、

すべての神殿建設が完了すれば、世界に300の神殿がそびえ立つこととなる。

日本では昨年7月に東京神殿が再奉獻されたが、間もなく沖縄神殿の奉獻も予定されている。国内だけでも4つの神殿が稼働することになるのだ。「天のお父様は、会員が減るであろう場所に神殿を建てることはされません。」日本においても、教会のさらなる成長が見込まれると語るマ



アジア北地域会長と過ごす特別な時間—

Nationwide Youth Devotional

全国青少年デイボーショナル



教会員が大切にされ、愛されていることは明らかです。わたしたちは日本の教会のすばらしい未来の始まりにいるようです。」

教会の未来を考えると、ある集会のことが思い出されるというマキューン長老。1830年4月6日、小さな家で末日聖徒イエス・キリスト教会が産声を上げたときのこと。ジョセフ・スミス以外は、将来行われる奇跡の業や教会の発展について、知

キューン長老は、ネルソン大管長の言葉を引用した。「近いうちにわたしたちは、これまで世界が見たこともないような、救い主の最も偉大な力の現れを目にすることでしょう。」※1

デボラ姉妹はよく、次の言葉を口にすると、「恐怖がドアをノックした。信仰がこたえと、そこにはだれもいなかった。」将来のことを考えると、ワクワクした気持ちになるというマキューン長老。この世はわたしたちが持つイエス・キリストへの信仰、平和、希望のメッセージを必要としているのであり、福音を恥じる必要はない。「それは世界の問題への唯一の答えであり、わたしたちの困難への特効薬なのです。」

最も大いなる大義

わたしたちが何をせずとも主の業は進み行くが、青少年には業に加わり、神の祝福を感じてほしいと述べるマキューン長老。人は皆、何か重要なものの一端を担いたいと願うが、多くの人は、過激な思想、信条や、世界の混乱に大義を見いだそうとしている。「神の預言者に与えられた明確な大義を持っているわたしたちは、どれほど恵まれているのでしょうか。」

ネルソン大管長は、イスラエルの集合を「地上における最も大いなるチャレンジ、最も大いなる大義、最も大いなる業」と定義し、次のように招いている。「すべての若い女性と若い男性に、イスラエルの集合を助けるために主の青少年のチーム、つまり青少年の大隊に加わるようにお勧めします。」※2

「皆さんは今日から、イスラエルの集合を助けることができます」と断言するマキューン長老。自分の友人や家族が神と聖約を交わす一歩を踏み出せるように、何



ができるか考えるよう呼びかけた。また、マキューン長老は宣教師として奉仕するよう若い男性を招いたうえで、若い女性については、自身の希望に加えて御霊の促しを感じるのであれば、ぜひ伝道に出てほしいと語った。「預言者にこたえ、イスラエルの集合を助けるのであれば、人生がよりよいものとなるでしょう。平和と喜びと大義に満たされるでしょう。……主を通して、世界は平和と希望と愛を見つけることができます。」

▶東京神殿別館から

●メアリー姉妹 すべては愛ゆえに

「神は天におられるわたしたちのお父様です。」神は、わたしたちの理解が及ばないほどに、わたしたちを愛してくださっていると語るメアリー姉妹。御父が御子を地上に送られたこと、主が命をささげてくださいったこと、預言者や戒めが与えられていること、すべてはわたしたちへの愛ゆえだと証する。神はただ、わたしたちがみもとに戻るのを期待しておられるわけではない。「御父は、わたしたちが喜びと平安と幸福を抱きながら生活することを望んでおられるのです」と、愛に満ちたメッセージで青少年を包んだ。

●ラズバンド長老 福音のワックスがけ

「姉妹、兄弟の皆さん、こんばんは。」にこやかな表情で語り出すラズバンド長老。およそ38年前、長老が韓国での伝道を終えて帰還した1984年のこと、アメリカでは「ベスト・キッド」という映画が公開された。※3

主人公のダニエルは、学校で辛い目に遭いながらも、女の子に恋をする思春期の

※1—ラッセル・M・ネルソン「世に打ち勝ちなさい。そうすれば、休みが与えられるであろう」2022年10月総大会
※2—2018年青少年対象のワールドワイド・ディボーション
ナル—ネルソン大管長夫妻を迎えて「シオンのつわもの」

※3—原題はThe Moment of Truth/The Karate Kid



少年。いじめっ子にやり返し、想い人に良いところを見せる最善の方法は、空手を会得することだと思に至る。空手の達人「ミヤギさん」に教えを乞い、特訓を受けることになったダニエルだが、最初に指示されたのは車のワックスがけ。円を描くように右手でワックスをかけ、同様に左手で拭き取る、この動作を一日中続けた。別の特訓、塀のペンキ塗りでは、手首を上下に動かしながら塗り進めるよう指導を受ける。そんな練習が数日続くと、ダニエルはすっかり疲れ果て、落胆してしまう。

ついに、ミヤギさんのもとへ向かったダニエルは、自分は空手を何も教わっていないと訴えた。すると、ダニエルに突きを繰り返しつつ、「ワックスをかけろ」「ワックスを取れ」と指示するミヤギさん。言われるがままに動く、攻撃を防ぐことができた。今度は「ペンキを塗れ」との指示に従うと、またしてもミヤギさんの一撃をかわすことに成功。取るに足りないように思えたあらゆる動きにより、ダニエルの筋肉は鍛え上げられ、会得する必要のあった動きが身体に染み込んでいたのだ。

ラズバンド長老は、ここから得られる教訓があると語る。第一に、すべてを御存じである主を信頼すること。神がわたしたちに行うよう求めておられる事柄に関して、その目的を理解するのは、時として難しい。それでも主の望みは確かに、わたしたちが義にかなった目標に到達することなのだ。

第二に、小さな、簡単な事柄を繰り返すことによって、大いなる結果がもたらされるという教訓。「主は小さな手段によって大いなることを成し遂げられる」※4という聖句にあるとおり、日々の祈り、福音学習、悔い改め、セミナーへの出席……これらすべてが、時を経て非常に大きな

影響をもたらすのだと、ラズバンド長老は力説する。ブリガム・ヤング大管長は、このような言葉を残している。「わたしたちの生活は、小さくて簡単な状況からできており、それらが積み重なって大きなことにつながり、男性や女性の人生を創り上げるのです。」※5

主のために時間を取る

ラズバンド長老は、わたしたちが選択する事柄は、単に善と悪に分類されるわけではないと指摘する。時には「どれくらいの時間」を善いことに費やすか、それがチャレンジとなるのだ。例えば、わたしたちは聖典学習が善いものであることを知っている。「けれども、一日に18時間聖典を読むのは善いことと言えるでしょうか」と問いかけるラズバンド長老。答えは明白だ。わたしたちは生活のバランスを取る必要があり、友人を作る時間に奉仕の機会、睡眠や食事も欠かせない。日本では時に、学業や放課後における活動が同じような危険性ははらんでいるという。

教育は重要なものであり、日本が教育に重きを置いている点を評価しつつも、ラズバンド長老は切に訴える。「勉強のために、主から遠のくことがないようにしてください。」35年ほど前には、ハーバード大学の法科大学院に通っていたラズバンド長老。自身も学業を大いに気にかけ、単位を落とさぬよう懸命に取り組んでいた。それでも、人生の中心にはいつも福音が



あった。興味深いことに、当時のクラスメートよりも、教会の召しを通じて出会った青少年たちの方が、今でも記憶に残っているという。「召しを通じて、永続する喜びを得たのです。」

ネルソン大管長は、日々主のために時間を取ることの重要性を説いている。「主のために、また学業のために、皆さんは必要な時間と方法を見いだすことができると知っています。……毎日主のために時間を取るという、ネルソン大管長の勧告に従うよう、皆さんをお招きします。」※6 祈り、福音を学び、教会の活動に参加するよう勧めるラズバンド長老。福音に関わる事柄に時間を取りつつ、学業でも成功を取めることは可能だと約束した。

主は次のように語っている。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」※7 ラズバンド長老は、総大会でネルソン大管長が引用した、ベンソン大管長の言葉で証を閉じた。「自分の人生を神に委ねる男女……神はそのような人々の喜びを深め、視野を広げ、知性を活気づけ、……霊を高め、祝福を増し加え、多くの機会を与え、慰めを与え、友人を元気づけ、平安を与えてくださいます。」※8

▶名古屋東ステーキセンター(名東)から ●直美姉妹 主を皆とするなら

聖典が大好きだと、壇上から笑顔で分かち合う直美姉妹。自身の経験から、イエス・キリストを中心に読むならば、さらにモルモン書を理解できるようになると語る。戦争が起こったとき、モロナイは主なる神に忠実であるよう民の心を備えさせた。現代にあっても、預言者は主に忠実であるようわたしたちを備えてくださって



いるのだ。

「主はわたしたちの砦であり……雨が降ろうと、嵐が来ようと、友達からいじめられようと、色々なチャレンジを受けようと……キリストにわたしたちが信頼を寄せるならば、主がわたしたちを強くしてください」と証を述べた。「皆さんを心から愛しています。主の御霊が常に皆さんとともにあり、主をよく知ることができますように。」

●和田会長 えり抜きの霊として

10月の総大会で新たに発表された『青少年の強さのために―選択の指針』から、大管長会のメッセージを引用する和田会長。「皆さんはまさに、天の御父のえり抜きの霊であり、重要なことを行うために、この時代に地上に送られました。時には、自分は強くない、能力がないと感じることもあるでしょう。……そのようなときは特に、救い主に頼ってください。主こそ、『青少年の強さ』なのです。*9

青少年のころ、自分が「えり抜き」の人間であるなどとは思っても寄らなかつたと語る和田会長。ところが宣教師に出会い、聖典を読み、自分が神の子供であることを知ると、自分はただの高校生ではなく、何か特別なことができる存在なのではと感じられるようになった。



15歳当時の写真。スーツを着る和田青年と、学生服に身を包む宣教師が笑顔

を輝かせる。宣教師と会って2か月ほどが経ち、彼らのようになれたらという思いが芽生え始めたころ、お互いの服を交換して撮った記念の一枚だという。大きな決断をし、バプテスマの水をくぐった和田会長は、後に宣教師として奉仕する機会に恵まれた。

霊的な教育の土台

学業に忙しい時期を過ごす青少年たち。教育は重要だが、普通教育には限界があると語る、ネルソン大管長の教えを引用する。普通教育の目的が、人々を現世の経験に備えさせることである一方、預言者の責任は、人々を来世にも備えさせ、永遠の命を得られる方法を教えることなのだ。

それでは、普通教育において学び得ない事柄とは何なのか。第1に、だれもがやがて死ぬという真理。第2に、イエスのおかげでだれもが復活し、不死不滅の状態になるという真理。第3に、すべての人に裁きの日が訪れるという真理。「これらの3つの絶対的な真理が、皆さんの霊的な教育の土台となるべき」だと、預言者は断言する。*10

どんなに学校の勉強をしても、神の息子娘として何ができるか、また、夫や父親、妻や母親になったときに何ができるのか、これらの永遠に続く役割については学べないと、和田会長は言葉を添える。永遠に比べれば、ほんの一瞬にすぎない現世での生活。しかしながら、この重要な一瞬において、わたしたちは日の栄え、月の栄え、星の栄えのどの律法に従い、どの王国で永遠に暮らしたいのかを選んでいるのだ。

福音を通して、人は人生の目的を知ることができる。キリストこそ、永遠の喜びに

至る道であり、選択の自由を使って主に従うならば、わたしたちはほんとうの意味で幸せになる道歩んでいる。「ぜひイエス・キリストを、兄弟姉妹たちの標準として、それを大切な土台として、生活するように学んでいただきたいと思います。」

福音の喜びを分かち合う

再び写真を紹介する和田会長。15歳のときに初めて出会った宣教師が神戸伝道部で、バプテスマを決意したときの宣教師が東京北伝道部で、それぞれ夫婦宣教師として奉仕しており、彼らとおよそ40年ぶりの再会を果たしたのだという。



長い時を経ても、当時のすばらしい宣教師たちが伝道の業を続けている。「福音を得た喜びを、ほんとうに心から感謝しています。」福音に出会ってから、自分の人生にもたらされた変化について考えると、驚くばかりだと語る和田会長。

青少年たちが通う学校の同級生も、同じく「神の子」であることを思い起こさせる。祈り求めるなら、福音を必要としている人を見いだすことができるかもしれないと、イスラエルの集合に参加するよう勧めた。「皆さんの言葉から、また模範から、神と人への愛が感じられるようにできたらと願っています。」

祝福はそばに

イエスは「わたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」*11と語る

*9—『青少年の強さのために―選択の指針』「大管長会からのメッセージ」

*10—ネルソン大管長によるヤングアダルトのためのワールドワイド・ディポーショナル「永遠にわたる決断」

*11—ヨハネ14:15参照



れた。和田会長は、神が期待しておられる事柄と、それによりもたらされる祝福を挙げていく。聖餐を受け、安息日を聖く保ち、断食し、什分の一を納めること。また、主の弟子であるよう努めるなら、御霊がともにいてくださる。戒めに従い、聖約を守るなら、神との関係を改善することができる。また、奉仕により人々に愛を示すなら、人間関係も良くなると約束する和田会長。

行動や外見、服装を通して身体を尊ぶ

なら、自分や他の人を大切にする気持ちが強められる。知恵の言葉を守る人には、知識の大いなる宝が約束されており、身体が健康であれば、個人の啓示を受け、主に仕える能力も高まる。純潔の律法に従うなら、神に認められ、霊的な力がもたらされる。「教育はほかの人、特にあなたの、皆さんの家族に祝福をもたらす力を与えるてくれるのです。学ばば学ぶほど、神の王国を築き、世の中に良い影響を与えること

ができるようになります。」

「天のお父様は皆さんの天の父です。皆さんのことを愛しておられ、いつか天のみもとに帰ってほしいと願っていらっしゃいます。……救いの計画を尊び、イエス・キリストのほんとうの意味での役割を学び、皆さんがイエス・キリストの弟子として生活できるように……多くの人々を励まし、高め合い、そして喜びを経験することができるよう願っています。」◆

今月のNews Headlines

●ニューズルームはこちら!

<https://news-jp.churchofjesuschrist.org>



- 松戸のディボーションナルに特別な訪問者 — 和田長老と中央若い女性会長のコードン姉妹 11月27日リリース
- コミュニティーをご招待しての「クリスマス・ネイティビティ」(「キリストの降誕の場面」) 展示会 11月28日リリース
- コミュニケーション関係指導者らが東京に集合 — 55人が参加し情報交換 12月1日リリース

※上記リストは日本発信または日本に関連する記事のみです。海外発信記事(日本語)も数多く配信しています。

役員の変動

2022年11月22日から2022年12月20日までに教会組織指導者住所録で更新された役員の変動(敬称略)

- 日本名古屋ステーキ
会長: 柳沼 言
第一顧問: 林 賢亮
第二顧問: 松岡 祐一
- 長野地方部長野支部
会長: 長坂 アロン
- 金沢ステーキ富山ワード
ビショップ: 佐崎 秀樹
- 神奈川ステーキ厚木ワード
ビショップ: 高畑 太一
- 名古屋ステーキ四日市ワード
ビショップ: 小川 勝正
- 長崎地方部佐賀支部
会長: 小谷 正樹

専任宣教師

●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット、MTC入所日/着任日



なかにし あおい
中西 葵
神戸伝道部
神奈川ステーキ
川崎ワード
2022年11月21日
プロボMTC入所

* 専任宣教師の皆様へ

専任宣教師ご紹介欄の掲載は自己申告制です。宣教師の皆様は着任の前後に、写真と情報(氏名、ふりがな、召された伝道部、出身ユニット、MTC入所日/伝道部着任日、伝道開始後も有効なメールアドレス)を、各伝道部に案内された所定のウェブフォームからお送りください。また、海外に召された方は、右の電子メールアドレス(リアホナ日本語版編集室)までお送りください。

皆様の情報をお寄せください

会員の皆様の身近な話題をご紹介ください

◎『リアホナ』日本語版編集室

〒106-0047 東京都港区南麻布5-8-8

TEL. 03-4545-3100(代)

電子メール:

JPNLiahona@churchofjesuschrist.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、その他商品に関するお問い合わせ——

教会配送センター

TEL. 03-5668-3391

FAX. 03-5668-3392